



磯焼け問題解決に向けたムーブメント、アクションの創出
を目的とした第1回JAPAN UNI SUMMITの開催
(海と日本2024)

一般社団法人moova

アジェンダ

- JAPAN UNI SUMMIT報告
- 岩手県洋野町うに牧場
リーフボール藻礁導入による藻場造成の実証実験報告
- 藻場再生交流プラットフォームづくり報告



JAPAN UNI SUMMIT2024活動報告

JAPAN UNI SUMMIT

■開催の背景

・開催の目的

本サミットは世界の海の未来を"うに"を通じて考えて行くサミットです。

約30年前は天然の昆布やわかめが生い茂り、日本では豊かな水産業が営まれていました。

しかし、国内産のうに生産量は、ここ数年大幅に減少しており全国的な「磯焼け」によって実入りが悪化しています。

「磯焼け」は海の砂漠化とも呼ばれ、海藻が消失する現象ですが、温暖化による海水温の上昇で、うにの活動が活発化し、餌である海藻を芽から根こそぎ食べ尽くしてしまう食害が原因の1つと考えられています。

オーストラリアでは海藻の一種であるジャイアントケルプの森が、数十年前と比較し95%以上消滅していると言われており、まさにこれは世界が直面するUNIversal Agenda(世界的検討課題)です。

私たちは、磯焼けによる餌不足で実入りが悪くなったり瘦せたりを廃棄するのではなく、美味しいうにに変える「うに再生養殖」、「藻場再生」の取り組みを行っておりますが、未だこの認知度は低く、様々な観点、手法からアプローチしていかなければならぬと大きな危機感を感じております。

うに再生養殖を加速し、日本のみならず世界でのブルーカーボンの造成を促進するため、各界でリーダーシップを発揮されている皆様と一緒に『世界の海の未来を豊かにする』手法であるUNIversal Actionを検討していくと考えております。

プログラム



2024年7月19日(金) JAPAN UNI SUMMIT

- | |
|----------------------|
| 11:30 鎌倉駅到着 |
| 12:00 リビエラ逗子マリーナ到着 |
| 12:00 ネットワーキング |
| 12:40 オープニング |
| 13:30 パネルディスカッション |
| 15:10 海を守る仲間たちによるピッチ |
| 16:10 テーマ別ディスカッション |
| 18:00 ディナー |
| 19:20 閉会の挨拶 |
| 19:30 終了 |

OPENING



北三陸ファクトリー/KSF Australia
代表取締役社長 CEO
TASMANIA BLUE SEAFOOD
Director
下芦坪 之典



北三陸ファクトリー/KSF Australia
Chief Strategy Officer
TASMANIA BLUE SEAFOOD
Director
田村 浩平



Sea Forest
Head of Research and Development
Dr. Masayuki Tatsumi



Wild Fisheries Program Leader,
Dive Fisheries Team Leader
Institute for Marine and Antarctic Studies
(IMAS), University of Tasmania.
Dr. John Keane

Panel Guest



株式会社オレンジ・アンド・
パートナーズ代表取締役社長
兼 N35 inc代表
株式会社下鴨茶寮代表取締役
社長
京都芸術大学副学長・芸術学
部教授

小山 薫堂氏



株式会社リビエラ 専務取締役
NPO法人リビエラ未来創りپ
ロジェクト 理事長
一般社団法人ブルーカーボン
ベルト・リビエラ研究所 代表
理事

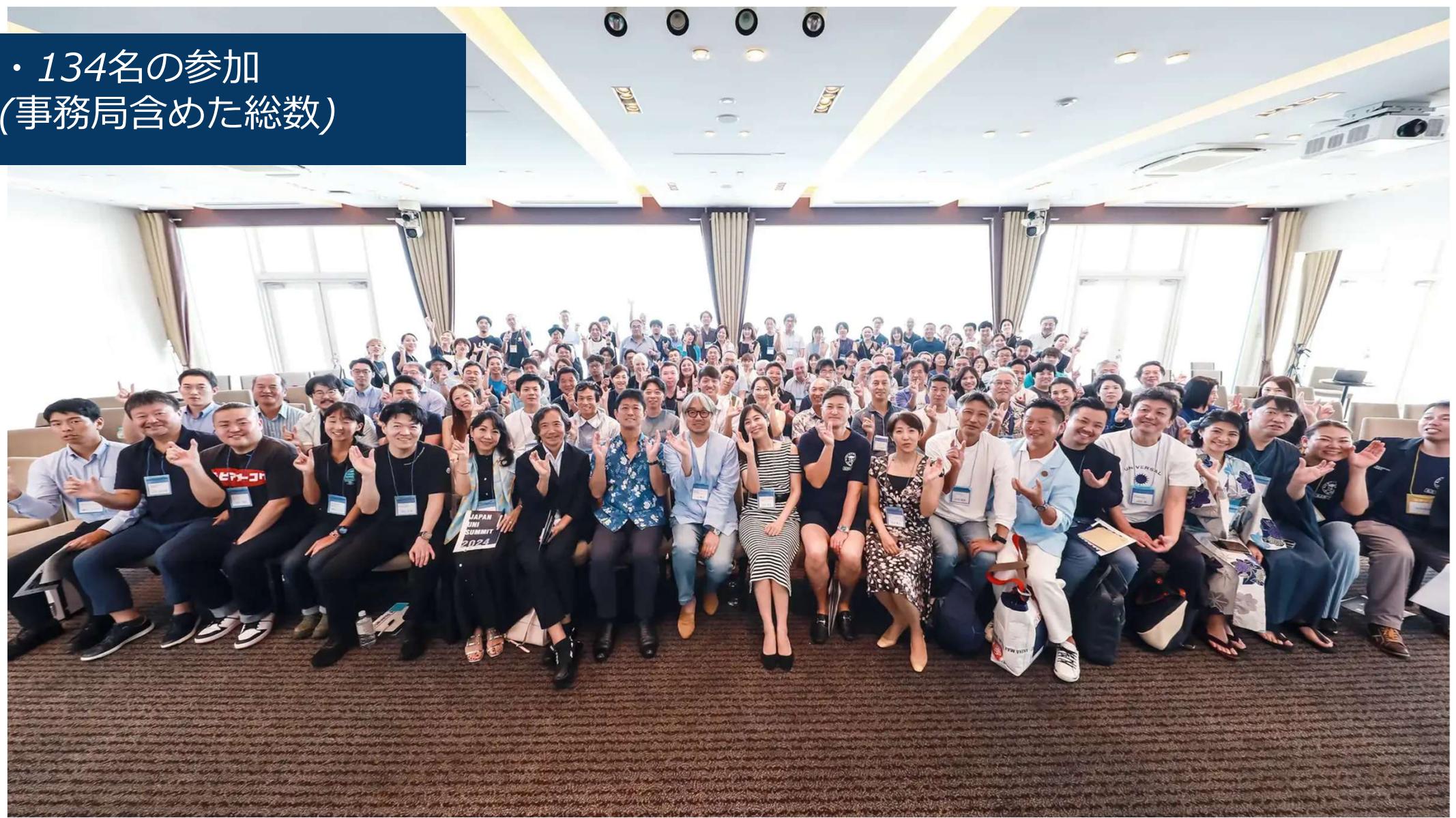
渡邊華子氏



一般社団法人エシカル協会
代表理事

末吉里花氏

・134名の参加
(事務局含めた総数)



来場者リスト

氏名	所属・役職
1 田嶋 勇	株式会社オレンジ・アンド・パートナーズ
2 黒木 信之	一般社団法人 日本テスナブルシーフード協会 理事
3 旗井 韶光	文交株式会社(海之町) 代表取締役
4 利根 朝太	一般社団法人 フィッシュマーマン・ジャパン 代表理事
5 アンヌコム 江野菜	[WORLD] 日本版 アシエイト・マーキング・エディター
6 棚原 智樹	株式会社 じのりの食堂 代表取締役COO
7 井林 美奈子	Sailor the Sea Japan ChairS&C / Susan Rockefeller Asia Representative
8 池田 俊之	株式会社エムアンドケイ マーケティング・マネージャー
9 石橋 区光	株式会社三崎漁水産 代表取締役社長
10 須田 勝利	株式会社シグマクレス フォードチーム コンサルタント
11 佐川 誠介	小坪海藻 漁業 (アビザル)
12 佐藤 万里	ZEROCO 株式会社 社長 / おいしい未来研究所 理事
13 齐世 大輝	株式会社GIRL 代表取締役CEO
14 岩本 俊	株式会社UMITO Partners 事業開発・営業部
15 岩本 錠輔	株式会社リブリ・代表取締役・CTO
16 Rick Verkooyen	Deakin University
17 日井 友太朗	株式会社ヨコハマ店 代表取締役社長
18 浦松 寛	北海道大学 大学院水科学研究所
19 大久保 哲	NGO うおまん 代表
20 大屋 淳子	株式会社オレンジ・アンド・パートナーズ
21 四川 雄	高幸建設株式会社
22 野田 麻季子	株式会社Unlock Insight Specialist
23 野田 博紀	食の未来ファンド(kemuri ventures) 代表パートナー
24 小沢 順子	エクトアッシュ株式会社 延喜事務部 シニアインベントメントディレクター
25 仲切 真一郎	NPO法人ETIC ローカルバイ・ベーション事業部 シニアコーディネーター
26 片口 美奈子	UBS証券株式会社 アジアント
27 片野 犀子	神戸大学大学院システム情報学研究科 / 海洋水産技術研究科(瓦瀬・ベンダ工業株式会社) 研究員
28 経野 政志	株式会社オレンジ・アンド・パートナーズ
29 川合 伸子	フォトグラファー
30 梶本 稔二郎	カクエイ・カンパニー株式会社 代表取締役会長 / ZEROCO株式会社 代表取締役社長 / おいしい未来研究所 代表理事
31 石川 热	株式会社オレンジ・アンド・パートナーズ
32 黒瀬 淳介	株式会社グローバル代表
33 週刊 鮎	オイシックス・ラ・大地株式会社 らいでしょぼーや商品本部 商品開発セクション マネージャー
34 Elizabeth Cox	オーストラリア大使館公使(通商) 北米アフリカ担当ジェネラル・マネージャー
35 小西 直子	一般社団法人アスリート代表理事
36 黒林 育美	アステラ・ミルク&ゼリー株式会社 一般社員
37 小林 正典	豊川平和財团海洋政策研究所 上席研究員
38 小倉 雄太	豊川平和財团海洋政策研究所 主任研究員
39 小山 葉堂	豊活作家・國士家、京都府新規創立者・株式会社オレンジ・アンド・パートナーズ 代表取締役社長 / 株式会社下地系便り 代表取締役社長 / 一般・西日本 テーマ事業プロデューサー
40 近藤 駿	株式会社オレンジ・アンド・パートナーズ
41 便井 ひなた	NPO法人海面自然学校 ディレクター / 有限会社アクトアシスistem
42 便井 恵子	オイシックス・ラ・大地株式会社 延喜企画本部グリーン・顧客室
43 魚谷 伸理	フリーランスフリーランス・とおむかでプロジェクト(福島県富岡町) / 福島はあったかくしま観光交流大使
44 佐戸 利和	株式会社Unlocal フードショッピングデザイナー
45 芸戸 利和	株式会社ミントフルネス・ラボ株式会社 代表取締役
46 下野 之典	株式会社北陸チカクトリー / KSF Australia 代表取締役社長CEO
47 John Keane	タスマニア大学 海洋生物学研究所 漁業プログラムリーダー 混合漁業チームリーダー
48 末吉 茂花	一般社団法人エシカル協会 代表理事
49 齋藤 佑	Mizuho Gulf Capital Partners Ltd CEO
50 杉浦 仁志	Social Food Gastroonomy Executive Chef
51 鈴木 実羽	キャビア王国 国王
52 鈴木允	日本海賊認定サポート 代表
53 角南 美	豊川平和財團 研究員
54 佐藤 恒	株式会社Unlocal 取締役 Startup Specialist & Geek
55 美野 みさ	Planning Management Field Coordinator
56 旗 茜	株式会社シードレガシー
57 Sally Townsend	Commissioner, Department of Trade, Tourism and Investment, Government of South Australia

氏名	所属・役職
58 高島 宜子	オイシックス・ラ・大地株式会社 代表取締役社長
59 高田 大地	株式会社AquaMAX 代表
60 高橋 大叔	一般社団法人 食の会 寿喜理事会 / 一般社団法人NoMAラボ代表
61 高橋 メイ	豊川平和財團
62 高屋 駿樹	豊川平和財團 特任部長
63 竹内 晃輝	日本経済新聞社 梅沢支局 記者
64 竹之下 朝洋	株式会社ARK 代表取締役
65 太刀川 真耶	佐藤製本株式会社 研修部 研修課 課長
66 佐々木 真	公務員団法人MORUMUUS 代表理事
67 猪谷 正雄	シーアンドレス・社 研究開発部門責任者
68 田中 宝雅	株式会社UnlocalX 代表取締役CEO
69 田中 駿	株式会社エムアンドエイ 海外事業部営業課長
70 田山 久雄	一般社団法人アリンバッタ君岐 代表理事
71 千葉 美	漁連
72 斎田 亮生	高幸建設株式会社
73 谷田 马樹	株式会社フィッシュマーマン・ジャパン・マーケティング 代表取締役社長
74 東海林 駿子	オイシックス・ラ・大地株式会社 手取役員
75 木井 乃	一般社団法人もっか代表理事
76 中井 駿	鹿島 日本産屋商店 オーナーシュフ
77 中川 めぐみ	株式会社クワーカー 代表取締役
78 中沢 隆	大日本印刷株式会社 ディレクター
79 中村 一之	みこあゆ 代表取締役社長
80 西澤 美和子	オイシックス・ラ・大地株式会社 らいでしょぼーや商品本部
81 西出 祐子	Relais Chateaux Director
82 斎田 あさ	株式会社オレンジ・アンド・パートナーズ
83 斎田 義美	ユーラシアビジョン 代表
84 芦田 和宏	株式会社三菱UFJ銀行 サステナブルビジネス部 調査部
85 芦田 和也	株式会社シーフードレガシー CEO
86 植口 一郎	北海道大学 大学院水科学研究所
87 幸野 聰己	鳥取県立農林水産高等学校地域連携科(産業・ビジネスゼミ) 鳥取県立鶴鳴高等学校2年
88 関川 うつや	Sailors for the Sea Japan
89 横田 朝子	株式会社シグマクラウド・プリンパル
90 原田 健郎	株式会社セラフィット 代表取締役社長
91 鹿野 大介	海賊費リサーチ、全国費かならみづくり推進会議 技術参画 / か土木建設技術センター 専門技術員 日本海藻協会会長
92 初原 保奈	株式会社マクタケ 研究開発部 研修課
93 星 昭和	株式会社Farm インバブル
94 関根 優	株式会社オレンジ・アンド・パートナーズ
95 本丸 陽一	ヒューリバインズ 海洋水産技術研究所 執行役
96 Fletcher Warren-Meyers	Deakin University
97 正木 秀浩	株式会社日暮之森 鹿児島県長
98 松井 香保里	一般社団法人人魚祭ノ理事
99 松井 隆弘	東京海洋大学 大学院
100 松岡 宏吉	株式会社マクタケ 手取役員
101 松岡 美樹	一般社団法人東京ブルー事業
102 松原 乱世	日本経済新聞社 横浜支局 記者
103 丸山 真輝	野村不動産㈱ 沖縄プロジェクト事務部 主任
104 今井 亮輔	東京海洋大学 学部研究室
105 宮下 大輔	株式会社可不可 代表取締役
106 吉広 雪	オーストラリア大使館 商務官
107 古川 亮博	アクア・ンドレス・株式会社 部長
108 山崎 芭之	有限会社パルマザ代表取締役
109 山本 雅	株式会社フーディング 代表取締役CEO
110 俄澤 一史	株式会社J Farm
111 吉田 雄貴	株式会社フィッシュマーマン・ジャパン・マーケティングプロジェクトマネージャー
112 Stuart Richey	Richey Fishing Co Pty Ltd CEO / Chairman Australian Maritime Safety Authority
113 Gail Richey	Richey Fishing Co Pty Ltd
114 旗井 美穂	野村不動産㈱会員会社沖縄プロジェクト事務部事業課長代理
115 渡邊 家	豊川平和財團 研究員
116 渡邊 貢一	Table for Sustainability プロデューサー / 内閣府CIPF ディレクター / X P J P 伝体デザイナー
117 渡邊 幸子	株式会社リビラ 寿喜取締役 / NPO法人リビラ糸糸割りプロジェクト 理事長 一般社団法人ブルーガーネル・リビラ糸糸割りプロジェクト 理事長

OPENING

高村 正大 ブログ

太平洋島サミットに続きウニサミット。

2024/7/21

太平洋島サミットに続きウニサミット。

金曜日は、逗子マリーナで開催された「JAPAN UNI SUMMIT 2024」に参加しました。雲丹を切り口に海洋環境の変化等、UNI-verbalな議論をする真面目な会でした。公務の為に中座したので、ウニを食べられなかった事を除けば、素晴らしい会でした。(笑)

夕方からは東京に戻り、在京ミクロネシア大使館新事務所開設1周年レセプションに出席しました。



高村 正大

コウムラ マサヒロ／53歳／男



[高村 正大 トップページへ](#)

[寄付して応援する](#)

「高村 正大」をご支援いただける方は、是非個人献金をお願い申し上げます。
※選挙ドットコム会員登録（無料）が必要です。

月別

2024年9月
2024年8月
2024年7月
2024年6月
2024年5月
2024年4月
2024年3月



高村 正大 氏
外務大臣政務官
衆議院議員

OPENING





グレート・サザン・リーフ財団からの提供動画
<https://vimeo.com/984197974/b60c75cfa4?share=copy>

OPENING



タスマニアの海域では温暖化とウニの増加が海藻のバランスを崩しており、生態系に大きな影響を与えていたという危機的な状況の共有、オーストラリアでのウニの漁獲とデータ管理を通じて藻場再生を目指す取り組み等について紹介されました。

パネルディスカッション



パネリスト

小山 薫堂 氏

放送作家・脚本家・京都芸術大学副学長、株式会社オレンジ・アンド・パートナーズ 代表取締役社長、大阪・関西万博 テーマ事業プロデューサー

渡邊 華子 氏

株式会社リビエラ 専務取締役、NPO法人リビエラ未来創リプロジェクト 理事、一般社団法人ブルーカーボンベルト・リビエラ研究所 代表理事

末吉 里花 氏

一般社団法人エシカル協会代表理事

真下 美紀子 氏

北三陸ファクトリー代表取締役副社長兼COO、一般社団法人moova代表理事

モデレーター

高橋 大就 氏

一般社団法人 東の食の会 専務理事、一般社団法人 NoMAラボ代表

それぞれの立場から、豊かな海を守るために私たちができること、をテーマに議論を展開されました。小山氏からは言葉の力で認識を変えるマーケティング手法の紹介、渡邊氏からは湘南地域での循環型農業や藻場再生、ブルーカーボンの推進についての紹介、末吉氏からは生活者に普及啓発している中での意識変容における新たな視点等について語られました。

海を守る仲間たちによるピッチ



登壇者

田山 久倫 氏 一般社団法人マリンハビタット 代表理事
渋谷 風雅 氏 株式会社北三陸ファクトリー 養殖事業部 担当主任
臼井 壮太朗 氏 株式会社臼福本店 代表取締役社長
櫻井 ひなた 氏 NPO法人湘南自然学校/有限会社アウトドアシステム ディレクター
樋口 一郎 氏 北海道大学 海洋応用生命科学部門 特任助教
鈴木 宏明 氏 キャビア王国 国王

進行

津田 祐樹 氏 Fisherman Japan Marketing 代表取締役社長

それぞれの立場から、豊かな海を守るために私たちができること、をテーマに議論を展開されました。小山氏からは言葉の力で認識を変えるマーケティング手法の紹介、渡邊氏からは湘南地域での循環型農業や藻場再生、ブルーカーボンの推進についての紹介、末吉氏からは生活者に普及啓発している中での意識変容における新たな視点等について語られました。

私のUNIversal Action



参加者全員によるテーマ別ディスカッション

Universal Commitment



技術開発、資源管理、流通、ブランディング、ファイナンス、グローバル連携のテーマに分かれ、ディスカッションにより議論を深めたのち、参加者それぞれのUNIversal Actionを発表しました。

参加者によるコミットメント

若者による水産系×旅

イタリアへ輸出しブランド価値を高める

ウニと魚介のハレ（ハレの日）とケ（日常）を創造する

実家お店つぐます

U：ウニサミットの仲間たちと N：っぽん、世界で I：一緒に美しい金沢まいもん寿司を提供
食べることを通じて対話を意識する。

モバ回復の実証実験を実施する

自分で食べる分のウニは自分で作る

顔の見える（生産者）水産物

藻とウニでおいしく海の未来へ

カキ養殖による「浜の生業づくり」→第三者に評価される～見せ方・伝え方をみつける～仕組みと実績をつくる

日本の"物語"を映像で世界に発信

ウニを米国へ

日本から世界に展開する「和」ハイブランドを2026年にスタート

UNI.OLYMPICを作ろう

能登半島でウニの畜養を始める

磯焼け対策の普及啓蒙と情報収集を効率よく進め、藻場回復に努めたい

"誰かの"顔を思いながら研鑽をする

海洋問題に関わる知が集まり様々な人がそれらに触れられる受け皿を作る

自ら生産者になる！（経済的にも）持続可能な水産業を作る

国際市場

良い循環を支えたい

うに再生2025スタートへ！←エサも島で！

フードテックファンド2号を組成し、日本のアクアビジネススタートアップに3億円以上出資する。

世界中にうにと一緒に食べる文化を広げる！

逗子小坪漁港における藻場再生技術の確立、SNS発信による知の共有

美味しいもうかる海藻を創る

生活者の代表として世界の海に思いを馳せながら、ウニの良さ、正しい価値を食べながら第三者

（世界の人）へ伝え続けていきます！

引き続きはぐくむ人、つかう人を支え続けます!!

新規（若い）参入者を受け入れる体制を作る

かつて世界一だった日本の漁業をもう一度人が集まる魅力ある産業に生まれ変わらせたい

いまは目に見えていない価値を顕在化し、新しい価値の評価基準をつくる

SKSJAPANで新しい経済モデルを議論する→自社Partner.clientで共創する

海況シミュレーション→利活用アイデア創出→資源管理・藻場再生

海と人が進化するUMI Tech Tokyo Cruster 知と技術×価値を作る人→Innovation 爆発

ウニ"を"幸せにする

トレーサビリティの徹底

日本中の漁業者のハートに火をつける。漁業者起点の水産改革を！

モバ再生の情報共有の架け橋に

ウニを売る。

テクノロジーの力で"見えないものを見る化"して社会の行動変容につなげる。（異業種の立場として）海洋生態系維持の重要性の認知拡大に貢献する

高校在校中に起業し、色々な「ウニ」を使った未来を作る

世界中の海でサーフィンしたりFishingしたりして海の様子を発信しながらMOBAがどうなってるかも発信する。ウニガラでイチゴ育て、いちごでウニのエサ魚か肉迷ったら魚を食べて少しでも消費に貢献する！

本物としての安心・安全・美味しい見える化し、日本の食材を輸出し世界最高の食の大國となり、第一次生産者年収平均800万以上食糧自給率を90%以上にする。

地魚×鮨 海の今と美味しさを伝える

食品の評価・認証の仕組みを活用する

プロの第三者視点でブランドを伝える！

海の環境変化に負けず海藻養殖を持続可能な産業にする。ウニもたくさんとる!!

漁師さんと水産以外の人々が「楽しい、おいしい！」でつながれる場をつくる

タスマニアでKSFぶち上げる

研究・技術と現場をつなぐ

子どもたちと親たちに藻場の大切さを伝える！

食を食だけで語らないことで関わり度を広げる

里山里海の知恵を掘りおこし、人の流れを作る

サステナブルシーフードを日本の水産流通の主流に

海を耕す・技術を追求する・実行する！

発信をして発信

よりよく伝える

価値をきちんと伝える

おいしい学校で海藻視点の講義を10回/年開催する

海藻を生かして、漁師として生きる

自分事化できるワークショップを作る

料理人としてのクリエイティブを活かし 海・ウニ×山 お客様の感動を生み出す!!

1次産業をイノベーティブにする地域横断組をつくる

地域の対話を続け、こどもたちの体験を通して海を豊かにする

（海洋安保に貢献するために）過疎化を阻止する。第1次産業の発 * モラルを考える

藻場（海）の生態系を豊かにするための機会・場を * * * 得られるように貢献する

漁師・水産業の人たちと生活者の距離を地縛め * * * で海の価値に気づける物をつくる！ウニを食べる時、必ず海の砂漠化について話題にし、海の今を伝える！

ブルーカーボンの次の一手をつくる。漁師さんが海師さんになって社会価値が向上する。

業界の垣根を超えて、ファイナンスセクターから活躍できる場を作る

Universal Commitment

ご挨拶

Elizabeth Cox 氏
オーストラリア大使館公使
角南 篤 氏
笹川平和記念財団 理事長

進行

渡邊 賢一 氏
Table for Sustainability プロデューサー、内閣府CJPF
ディレクター、X P J P 価値デザイナー



洋野町独自の仕組み「うに牧場」で育ったウニ、タスマニア産のほたて、湘南エリアの食材を中心としたディナーにより、守るべき水産資源の魅力が美味しさの体験と共に舌に刻まれました。
参加者全員により「UNIversal Action」を作成し、海を豊かにするアクションを宣言しました。

メディア露出

日本経済新聞

朝刊・夕刊 **LIVE中** Myニュース 日経会社情報 人事ウォッチ NIKKEI Prime

トップ 速報 ビジネス マーケット 経済 國際 オピニオン もっと見る #自民党総裁選2024 #米大統領選2024

ウニ通じ世界の海豊かに 神奈川県逗子市でサミット開催

2024年7月22日 19:45

保存

参加者はグループに分かれて海を豊かにする方法を議論した。(19日、神奈川県逗子市)

高村 正大 ブログ

太平洋島サミットに続きウニサミット。

2024/7/21

太平洋島サミットに続きウニサミット。

金曜日は、逗子マリーナで開催された「JAPAN UNI SUMMIT 2024」に参加しました。雲丹を切り口に海洋環境の変化等、UNI-verbalな議論をする真面目な会でした。公務の為に中止したので、ウニを食べられなかった事を除けば、素晴らしい会でした。(笑)

夕方からは東京に戻り、在京ミクロネシア大使館新事務所開設1周年レセプションに出席しました。

高村 正大 ブログ

寄付して応援する

「高村 正大」をご支援いただける方は、是非個人献金をお願いいたします。

※選挙ドットコム会員登録(無料)が必要です。

月別

2024年9月 2024年8月

今日のランチにあったか!

一食入魂 小山薫堂

事件どよ

毎週木曜夜11:00

(初回は4/7放送予定) ※一部地域を除く

選挙ドットコム

高村 正大 ブログ

太平洋島サミットに続きウニサミット。

2024/7/21

太平洋島サミットに続きウニサミット。

金曜日は、逗子マリーナで開催された「JAPAN UNI SUMMIT 2024」に参加しました。雲丹を切り口に海洋環境の変化等、UNI-verbalな議論をする真面目な会でした。公務の為に中止したので、ウニを食べられなかった事を除けば、素晴らしい会でした。(笑)

夕方からは東京に戻り、在京ミクロネシア大使館新事務所開設1周年レセプションに出席しました。

高村 正大 ブログ

寄付して応援する

「高村 正大」をご支援いただける方は、是非個人献金をお願いいたします。

※選挙ドットコム会員登録(無料)が必要です。

月別

2024年9月 2024年8月

戸さん事件どよ G 毎週木曜夜11:00

(初回は4/7放送予定) ※一部地域を除く

インフルエンサーによるドキュメンタリー映像撮影



- ・日本の洋野うに牧場®
- ・豪での取り組み

→藻場再生の取り組み

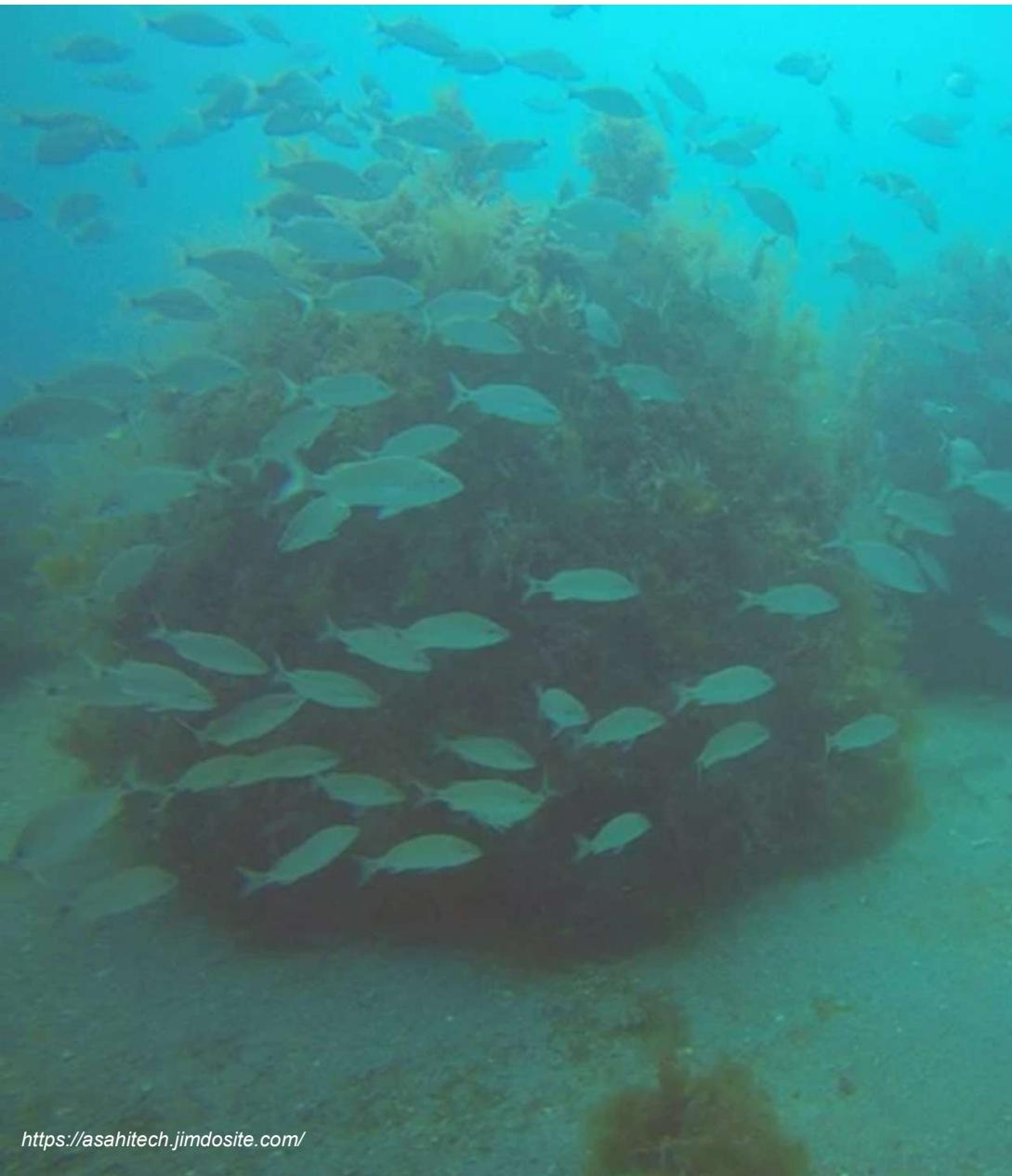
The FUKUSHIMA No One Talks About | Stories From Local People

Ryotaro's Japan 登録済み 4946 共有 ...

4.6万回視聴 2年前 FUKUSHIMA
You probably have an idea in your head when you hear the name Fukushima, that is true for almost everyone here in Japan too.
...もっと見る

RYOTARO JAPAN

https://youtu.be/G_MGDsIWd1I



岩手県洋野町 うに牧場

リーフボール藻礁導入による藻場造成の実証実験

一般社団法人moova

実施概要

岩手県洋野町内の増殖溝に、一般社団法人マリンハビタット 及び リーフボール製造元の株式会社朝日テックで製造する藻場再生基材リーフボールを設置します。

リーフボール概要

(一社マリンハビタットHP抜粋)

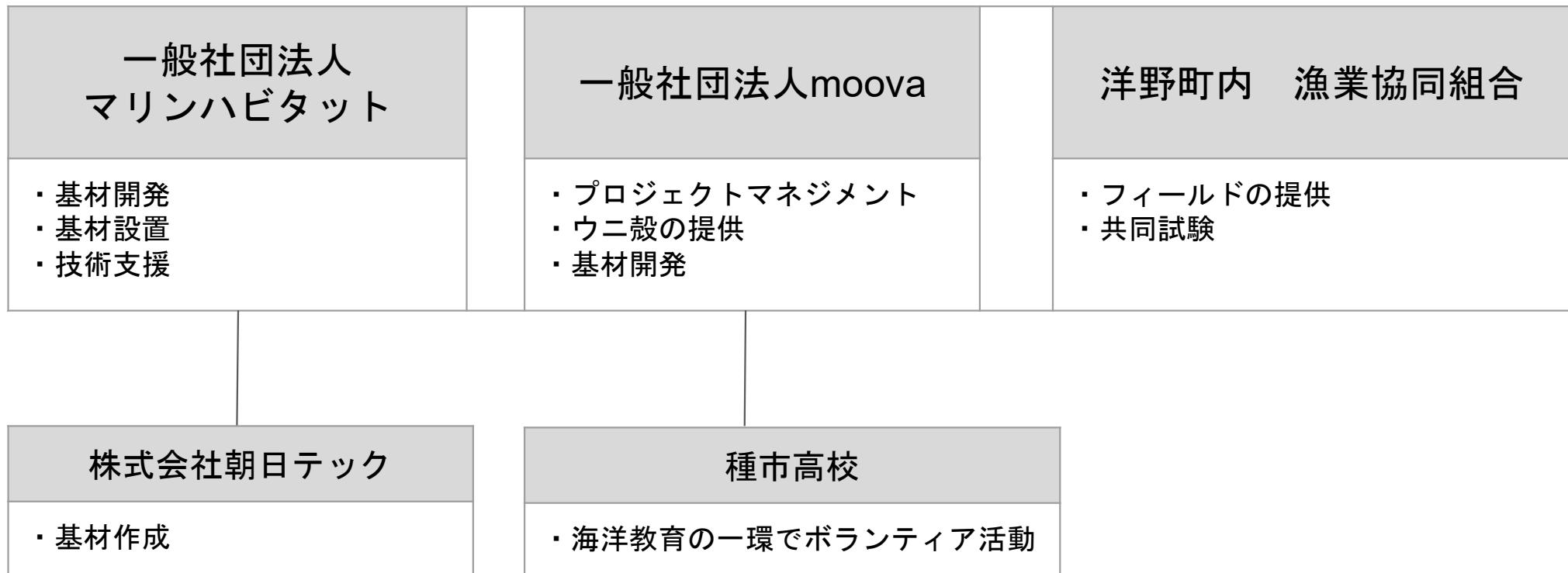


リーフボールとは

リーフボールはアメリカのリーフボール財団が開発したコンクリートブロックで砂浜の海岸侵食防止や、サンゴ礁再生の基台として世界で活用されている人工礁です。磯焼け※の解消、水産資源の再生事業でも利用されています。

※海藻が繁茂していた海の近くで、急激に海藻が減少し、海藻がほとんど生えなくなる現象

実施体制



実施スケジュール

2024												主担当	
10月				11月				12月					
w1	w2	w3	w4	w1	w2	w3	w4	w1	w2	w3	w4		
発注												Moova	
	基材作成											朝日テック	
				基材輸送								朝日テック	
					基材設置							マリンハビタット	
					モニタリング							Moova	

予算概算

項目	規格・備考	合計 (税込)
リーフボール	W76cm X H53cm 約180kg 通常リーフボール2基、ウニ殻及び天然ゴム入りリーフボール2基	2,596,000
SBAキューブ10kg	500g	176,000
沈設用船費用	1日	110,000
運送費	1回	110,000
モニタリング用船舶レンタル	漁協への支払い	600,000
モニタリング機材	GoPro HERO12 Black +microSD128GB	70,000
		3,662,000

モニタリング及び効果検証アプローチ

モニタリング及びCO2吸収量算定

- ビデオ・写真データ (GoPro) での月次モニタリング
=>コドラート枠 (1m×1m) を用いた海藻被度及び海藻組成観察もあわせて行う
(参考 : 第3版 磯焼け対策ガイドライン)
- CO2吸収量 (ブルーカーボン) 算定
$$\text{CO2吸収量(tCO2e)} = \text{対象面積の海藻湿重量(kgWW)}^* \times (1 - \text{含水比}) \times \text{P/B比} \times \text{炭素含有比} \times 44/12 \times (\text{残存係数}① + \text{残存係数}②) \times \text{生態系全体への変換係数}$$
 (参考 : J ブルーカーボン認証申請の手引きv.2.4)

効果検証アプローチ

- 設置区 : ①通常リーフボール+SBAキューブ ②コンクリート
③ウニ殻+天然ゴム入りリーフボール+SBAキューブ
 - コントロール区 (介入なし)
- =>設置区①②の比較 : リーフボール (フルボ酸鉄) の効果検証
=>設置区①③の比較 : ウニ殻+天然ゴムの効果検証
=>①②③それぞれの設置区とコントロール区との比較による効果検証

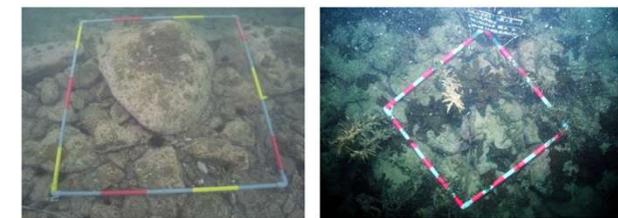
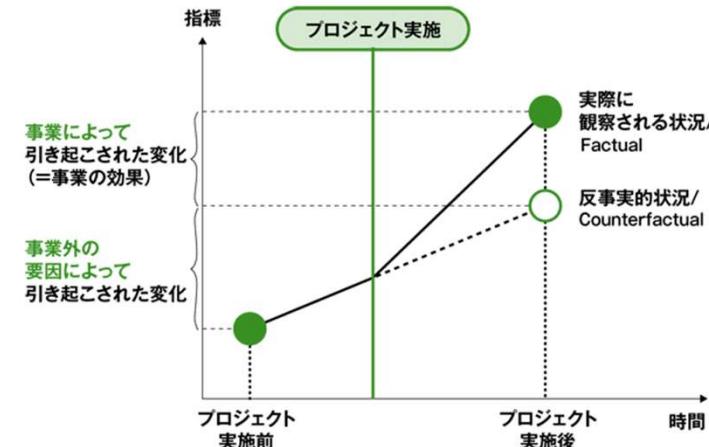


図 7-B1-5 コドラート枠 (1m×1m) を用いた観察

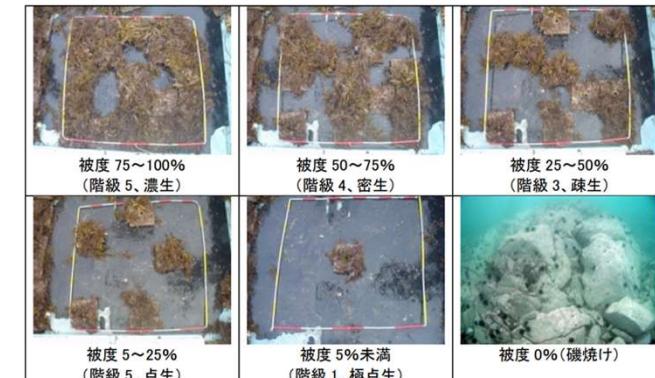


図 7-B1-6 海藻の被度階級



藻場再生交流 ネットワーク

一般社団法人MOOVA

藻場再生技術交流ネットワーク（コミュニティ運営）実施の背景

UNI SUMMIT開催を経て、参加者（特に藻場再生技術に関するディスカッショングループ）の中から下記のようなニーズが出された。そこで、その声に応えるべく、継続的なネットワーキング支援を行い、実質的な藻場再生の取り組みが行われるための体制を整える。

ニーズ	解決のために実現したいこと	ソリューション
UNIサミット後の連携をうみ、成果を作りたい	<ul style="list-style-type: none">継続的に関係性を続け、関係者が相乗効果を生み出すことができる場を作る	<ul style="list-style-type: none">オンラインプラットフォームオンライン/リアルミートアップ
産学連携を加速したい（研究を実践に反映したい）	<ul style="list-style-type: none">オンラインプラットフォームで自由に質問ができる直接話が聞ける交流の場がある研究内容や取り組みを知ることができる	<ul style="list-style-type: none">→Open Q&A→ミートアップでの交流会（課題の吸い上げ/ 対策に向けた小グループ結成）→参画団体紹介（活動・専門）→ミートアップでの事例共有→記事化→重点課題においては、リアルミートアップにて行う
全国の藻場再生・磯焼け対策を加速させたい（ソリューションを持つ企業とこれから取り組む企業が繋がり実践が加速する）	<ul style="list-style-type: none">事例共有の場がある（記事・ミートアップでの事例共有）オープンな質問ができる場があるマッチング次第でビジネスにつながる場合もある相談できる人を検索することができる	<ul style="list-style-type: none">専門家への相談会→上記のプラットフォームを通じたノウハウの基盤が確立した上で、次の段階として実施
漁協・漁業者など現場を巻き込み展開したい	<ul style="list-style-type: none">ソリューションを持たない現場の人たち（本プラットフォームに参画していない人たちも含む）が参加できる相談会がある	

藻場再生技術交流ネットワーク 概要

①オンラインプラットフォーム

・藻場再生事例紹介

解決策を持つ団体の取り組み紹介

→ 前述のリーフボール藻礁導入による藻場造成の実証実験 過程・結果の公開 含む

・Open Q&A

藻場再生に取り組む上で相談事項の質問・必要な情報を募集できる投稿ページ

・参画団体紹介

プラットフォーム参画団体・個人の活動を知り、繋がることができる

②オンラインイベント

・オンラインミートアップ(月次開催)

・内容

取り組み事例紹介

交流会 (→課題の抽出)

Open Q&A

③技術交流対面イベント

・リアルミートアップ(年1回)

UNI Summitのサブイベントとして

・内容

成果共有会

重要課題をテーマとした
オープンイノベーション



藻場再生技術交流ネットワーク 具体的な取り組み

①オンラインプラットフォーム

・藻場再生事例紹介

解決策を持つ団体の取り組み紹介

note → webページ作成

ミートアップの事例共有やナレッジを記事化する

・Open Q&A

facebookグループ → コミュニティプラットフォーム (webページ)

藻場再生・養殖技術に特化した

オープンイノベーショングループを作る→UNI SUMMITグループに呼びかけ

【内容】

- ・オンラインミーティングの告知
- ・OpenQ&A(藻場再生に取り組む上で相談事項の質問・必要な情報を募集できる)
- ・取り組みのシェア

・参画団体紹介

スプレッドシート → webページ作成

参画個人・団体の紹介（立場・専門性・活動内容）を一覧にして検索し、直接アプローチできるようにする

②オンラインイベント

オンラインミートアップ@zoom

直接交流を行うことができる場

【内容】

- ・事例共有（学術/実践 両面）
 - ・交流会（小グループに分かれて自由に話す）
 - ・OpenQ&A
- ⇒現場の課題抽出
⇒重点課題においては分科会を設置し
別でミーティングを行う

③技術交流対面イベント

リアルミートアップ@UNI SUMMIT 前後

オープンイノベーション

【内容】

- ・オンラインでは解決しきれない複雑かつ重要なテーマをピックアップして、時間をかけて解決に向けたディスカッションを行う



北三陸ファクトリー

Seaweed bed restoration
**OPEN INNOVATION
PLATFORM**

CONCEPT

海の環境を 取り戻す

立場や経験を超えて

かつての海の豊かな生態系を取り戻す(=藻場再生) ために

それぞれのリソースを持ち寄り、学び合い

課題の根本解決を共に行うプラットフォーム



INTRODUCTION

WHY OPEN INNOVATION?

現在、日本の海洋環境の変化が激化し、藻場再生の重要性と緊急性が増しており、その解決は個別の取り組みでは間に合わない状況にあります。一方で、立場や経験、利害等の違いによって課題感やニーズもそれぞれ異なることもあります。有機的な連携が難しく、根本解決が進みづらいことも事実です。根本的な共通課題に対して連携して解決する仕組みが必要となっています。そこで、異なる課題感・ニーズ・リソースを持つからこそ、その多様性から生み出せるイノベーションを実現するためのプラットフォームを立ち上げることにしました。

【オープンイノベーションとは】

- ・自社だけでは達成が難しい事業を、外部のリソースを活用して実現する
- ・業界横断的な視点で、自社の事業範囲を超えたビジネスモデルを構築できる
- ・クローズドイノベーション（自社のみのイノベーション）と異なり、研究開発にかかる時間と費用を削減できる



GOAL ; IMPACT

What is the impact of this platform?

日本の海域における藻場再生の実現に向けて

- ①障壁となっている技術的・構造的・事業的等の課題に対して
多様なステークホルダーがリソースを持ち寄ることによって
根本解決するための機能を共創し、運営する。
- ②それにより、継続的な藻場再生の取り組みが前進するための
基盤が作られ
- ③結果、各セクターの取り組みが加速して現実的な海洋環境の
改善をもたらす



役割



PLATFORM

研究者による勉強会

地域別分科会

モニタリング連携

事業性検討

技術情報共有会

最新事例共有サイト運営

グローバル事例交流

藻場再生の取り組みを推進するための
根本課題を共同で解決する機能を検討・構築

VOICE

Opinions from expert interviews

PFについて

情報の共有とニーズの把握:

- 藻場再生に関心のある人々のニーズを整理し、どのような情報が必要かを明確にする。
- 参加者のニーズに応じたテーマ設定を行い、アクティブなコミュニティを形成する。

全体感の把握:

- 地域ごとの情報を集約し、全体像を把握することで、効率的なソリューションを提供する。
- **具体的なニーズの把握:** 参加者のニーズを明確にし、行動に移すテーマを特定することが重要

領域

課題

テーマ

解決案

構造

漁協の非協力:

- 漁協が予算を取りづらく、独自の活動を希望している。
- 漁協内でのやる気が不足しており、協力が得られない。

漁業者との調整:

漁業者との関係構築が難しく、実証実験の影響を証明する必要がある。

漁協との連携: 漁協との協力が不可欠で、漁業権の問題にも配慮が必要。

参考 : オーストラリア: 州政府が管理し、大学やシーフォレストが先導。研究資金で藻場再生を行っている。

事業性

コストウニの再生養殖に必要な設備投資とそのコストを明確にする必要がある。

資金調達の難しさ:

漁業者が資金調達を行う際の障壁が多い。

持続可能なビジネスモデル: 藻場再生を商業的に成立させる方法を模索し、持続可能な活動を推進する。

環境改善が経済活動の一環として機能する仕組みを構築。

技術

アカデミックの活用: アカデミックなアプローチが求められるが、実行に移されていない。実行可能な技術の不足

技術の不確実性:

- 使用する技術が研究され尽くしていないため、導入が難しい。
- 自治体は効果が不明なプロジェクトに資金を投入しにくい。

研究者との連携

リソースの未活用: 藻場再生に向けた技術が適切に使用されていない。

サポートが不足: 研究者が忙しく、リソースが不足しているため、適切なサポートが得られにくい。

情報不足: 問題の原因を究明せず、間違った情報が流通している。

地域性

藻場再生のガイドライン: エリアごとにプラットフォームを活用し、技術を導入。

海域が5つのパターンに分かれており、適切な技術の開発と支援が必要。

地域適応: モデルが完成すれば、適応可能な地域が見えてくる。

栄養塩の流れや施肥の影響を調査する

地域特性の考慮: 各地域の環境に応じたアプローチが必要であり、柔軟な対応を心がける。

地域ごとに海の環境が異なり、適切な専門家が必要。

大学と連携し、エビデンスを基にした研究を進める。

研究者と実践者の間での情報交換を促進

実証実験の推進:

漁師たちが集まり、実証実験を継続的に行なう会を発足。

藻場再生に向けた具体的な手法を確立する。

失敗例を共有し、学び合うことでスタートラインを上げる。

技術のマッチング:

お互いの技術がマッチし、具体的な活動に繋げる。

成功事例や知見を持ち寄り、効果的な方法を模索する。

STEPS

自分ごとにつなげること

①システム全体を捉える

日本の藻場再生の取り組みの状態を捉える

*可能性・兆しがある要素

*ボトルネック（課題）となっている要素

②ビジョンとシナリオを描く

藻場再生が効果的に促進されていくための
ビジョン（最高の未来）とシナリオを設計する

③シフトする領域を特定する

ビジョンを実現するために何をシフトするべきか
特定する▶プラットフォームの機能を設定

- ・そのために必要な機能を抽出する▶プラットフォームで実装する
技術情報共有会/研究者による勉強会/地域別分科会/事業性検討/モニタリング連携 etc
- ・そのために持ち出せる各自の持つリソースを共有する
- ・連携が必要な外部ステークホルダーにアプローチ、協力要請する
- ・継続的に議論するテーマを特定し、継続的に扱う

START UP PROCESS

May

June

July

August

September

Online Mete up @zoom

①システム全体を捉える
課題と兆し

②ビジョンとシナリオ
最高の未来を描く

③シフトする領域
何が必要かを特定する
▶PFの機能を特定
▶今後のテーマを設定
▶分科会の設置

Real Mete up

重点課題のディスカッション
シフトする領域における
重点課題にフォーカスし
根本課題解決のための
ディスカッションを行う

OPEN Q&A @ facebook group

シフトするために必要なプラットフォーム機能の実装



REQUIREMENT

- ✓ 本プラットフォームは、「藻場再生」の取り組みを促進するための根本的課題解決を共同で取り組むための機能を持ち合わせるものである
 - ✓ 参加メンバーは当事者として課題を出し合うと共に、持ち合わせたリソースを活用し、目的を達成するために主体的に機能構築に参画し、事務局はその運営を担う
 - ✓ 情報提供や学習の機会、プログラムを受動的に受け取るのみの場ではなく、主体者として共創し、目的を追求するチームである
 - ✓ 専門性を伴うサービス・情報提供が発生する場合は、ビジネスとして展開していく
 - ✓ ただし、個人の利益を追求することだけを目的とする方の参加はご遠慮いただくこととする
- 